

地域福祉活性化のためのコミュニティ ファンドに関する調査研究

社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会

〒665-0825 兵庫県宝塚市安倉西2丁目1番1号 総合福祉センター

助成事業の概要

本研究は、社会福祉協議会における「公費（税金・保険）」に頼らない新たな地域福祉の財源確保のあり方について調査研究を行うものである。今回は、宝塚市社会福祉協議会における、新たな地域福祉財源の可能性を探るための調査研究を行なった。

その手法としては、募金等における問題、課題等を整理したうえで、新たな取組の情報の収集・整理を行った。加えて、阪神地区7市1町の共同募金担当者等による研究会を3回実施した。

第1回目は、共同募金の実態や施策等の動向を共有し、特に「募金百貨店」の動向について議論を行った。第2回目は、共同募金の公募配分について、事例の報告と議論を行った。第3回目は、募金とは違う、社協会費・会員の特殊性と今後のあり方について議論を行った。集まったメンバーは、日常、組織内で「地域福祉財源」の確保について悩みを抱えたまま他との交流や情報交換が困難な状況にあったことから、活発な議論が行われた。

事業の成果

1. 既存の手法の問題・課題・対応の方向性を整理・提示することができた

①募金等システムの形骸化：募金業務の合理化・効率化・システム化が進む中で、職員等関係者にその志が失われがちになることは、注意すべき点である。基本に戻って、募金協力者や募金者との

関係の深化を図るとともに、募金活動への感謝や敬意を、あらゆる機会を通じて伝えることが必要である。

②戸別募金への依存傾向：戸別募金への依存傾向の問題は、地縁を通じた募金手法の結果として、その「強制感」、目的や理念の見えにくさ、担い手の負担感の増大、配分の説明不全と不信感等の問題にもつながっていく。地道な取組を継続しながら、新たな取組の可能性を探ることが必要である。

③活動との関連の見えにくさ：配分先（活動との関連）が計画されてしまうと「固定化・形骸化・既得権化」の懸念がある一方、公開性や透明性を確保できる公募配分は、その結果にむしろ公平性への懸念や、感情的なしこりを残す懸念もある。テーマ型募金も含めた、多面的な配分方法が必要である。

2. 新たな手法の選択肢を整理・明示することができた

研究会等を通じて得た新たな取組を分類して提示することで、地域福祉財源の新たな取組の可能性を提示することができた。ここでは地域福祉財源の調達元を「地域・市民」「市場」「福祉関連事業者」「行政等」として提示し、「地域福祉財源確保の事業モデル」を具体的に示すことができた。

3. マスコットキャラクター図案の追加作成により地域・ボランティア・事業者等の活用の幅が増えた

当初、マスコットキャラクター「スミレン」のグッ

ズの作成を想定していたが、市場開発がなされていない中、社協がグッズで「儲ける」ことを考えるよりは、広く「スマレン」が親しまれ、活用できる環境が重要であると判断した。そのため「スマレン」図案の追加作成と、市民がフリーに使うことができるように著作権処理を行った。

■ 成果の広報、公表

<調査研究>

本調査研究の成果物は、地域福祉財源の概要とその新たな可能性について言及した、パワーポイント資料とその裏付け資料である。これは調査研究に加わった阪神7市1町の担当者と兵庫県共同募金会には配布予定である。さらに弊社ホームページに掲載、公表予定である。パワーポイント資料は、それぞれの市町において、ローカライズして活用することができる。なお地域福祉学会等への報告については、内容の客観性を高めるため、さらなる調査研究が必要となる。

<実践研究事業費の成果>

本事業によって、弊社マスコットキャラクターの「スマレン」のデジタルを追加で作成した。これらの図案は、宝塚市の福祉目的に活用するためのものである。本事業終了後は、この図案をホームページ等に掲載し、またその広報を行い、例えば作業所等で、各種スマレングッズ(文具、雑貨、バッグ等)の作成や販売が可能となるよう、活用していただく予定である。

■ 今後の展開

1. 既存の手法の維持・発展

①募金等システムの形骸化：特に自治会対応を軸に、募金者・募金協力者等と密な関係を築き、その理念・内容・手法のさらなる共有化を図る。

②戸別募金への依存傾向：戸別募金は、より丁寧な説明やアプローチを心がけ形骸化を防ぐ一方で、地域での新たな助け合い、ボランティア・NPO活動の中で、募金の可能性を探っていく。

③活動との関連の見えにくさ：既存の活用や配分は一定程度維持しながらも、テーマ型募金や募金百貨店も含めた、多面的な配分方法の検討と実施を進めていく。

2. 新たな手法の模索

地域福祉財源の調達法としての「地域・市民」「市場」「福祉関連事業者」「行政等」等から、地域に合った実現可能な募金手法を検討・実施する。

3. マスコットキャラクター・スマレンの図案活用の拡大

スマレンの図案をホームページ等で広報・提供し、広く市民・地域・ボランティア・介護福祉関連事業者等が活用できるようにする。